

第4回 東日本大震災追悼チャリティコンサート
鎮魂と復興への祈り

シューベルト：ミサ曲第2番 ト長調 D167

F. Schubert: Messe Nr.2 G-dur D167

モーツァルト：レクイエム ニ短調 KV626

W.A.Mozart: Requiem d-moll KV626

モーツァルト：アヴェ・ヴェルム・コルプス ニ長調 KV618

W.A.Mozart: Ave verum corpus D-dur KV618

指揮：前田幸康

合唱：東日本大震災メモリアル合唱団

ソプラノ 白木あい / メゾソプラノ 手嶋眞佐子

テノール 小貫岩夫 / バリトン 原田 圭

オーケストラ：東日本大震災メモリアル管弦楽団

2015年3月8日(日) 2:30pm

上野学園 石橋メモリアルホール

東京合唱団

<http://tokyo-gasshodan.com/>

ごあいさつ

本日は、第4回東日本大震災追悼チャリティーコンサートにご来場いただき誠にありがとうございます。

東京合唱団は、大震災のまさに1年後の2012年3月11日に、他の合唱団からの有志参加者とともに東日本大震災追悼チャリティーコンサート「鎮魂と復興への祈り」を、上野学園 石橋メモリアルホールで開催いたしました。その後も毎年同じ時期に当団が主催団体となってこのコンサートが続け、お蔭様で今回第4回目を迎えることができました。多くの合唱愛好家有志の皆様にも広く参加を募り、また学校法人上野学園のご協力のもと、同大学の教員、学生の有志の皆様にもこの趣旨に賛同いただき、ソリストやオーケストラのメンバーとして参加をいただいております。

これまでのコンサートで得られた純益金は、当日会場での募金をあわせ、被災地の音楽の復興に役立てていただくため、再生ピアノや他の楽器を被災地の老人福祉施設および幼稚園や保育園などの施設に届ける費用に充ててまいりました。これまでに9施設に10台の再生ピアノ、2施設に電子ピアノ・クラビノーバ、そして3施設に鼓笛隊用のドラム等を寄贈しました。またピアノ等の寄贈に合わせて合唱団の有志メンバーが現地を訪問してミニコンサートを開くなど、被災地の方々との交流も深めてまいりました。詳しくは本プログラム14、15ページおよび東京合唱団のホームページに記しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

今回も参加者全員、震災で犠牲になられた方々の鎮魂と被災地の一日も早い復興を願い、心を込めて演奏させていただきます。そして、被災地の音楽復興に少しでもお役に立ちたいと願っております。今後ともどうぞ変わらぬご理解、ご支援をお願いいたします。

2015年3月8日

東京合唱団団長 市井善博

Program

F. Schubert: Messe Nr.2 G-dur D167

シューベルト：ミサ曲第2番 ト長調 D167

..... 休憩

W.A.Mozart: Requiem d-moll KV626

モーツァルト：レクイエム ニ短調 KV626

W.A.Mozart: Ave verum corpus D-dur KV618

モーツァルト：アヴェ・ヴェルム・コルプス ニ長調 KV618

前田幸康 指揮

Maeda Yukiyasu conductor

国立音楽大学卒業。チェロを小沢弘、黒沼俊夫、小野崎純、マルティン・オースタータークの各教授に師事。1974年1月フライブルク市立交響楽団のメンバーとなる。指揮を前田幸市郎、伊達良、クラウス・ハーベルマンの各氏に師事。1990年以来日本において指揮活動をしている。W.A.モーツァルト「レクイエム」、J.G.L.モーツァルト「ミサソレムニス」(日本初演)、グラウンのオラトリオ「イエスの死」(日本初演)、ブラームス「ドイツレクイエム」、J.S.バッハ「ミサ曲口短調」「ヨハネ受難曲」、フォーレ「レクイエム」、ヘンデル「メサイア」、メンデルスゾーン「パウロ」等を指揮。1985年よりプロアルテ・カンマー・オーケストラ・フライブルクの首席チェリストを務めた。同年にフライブルク市よりカンマームズィカーの称号を贈られ、1989年には国際文化交流功労賞メダルを同市より授与された。2009年には日本国外務省の国際文化功労賞を受賞。上野学園大学音楽部弦楽学部主任教授。東京合唱団音楽監督。



白木あい ソプラノ Usuki Ai soprano

東京藝術大学声楽科卒業、同大学院独唱科ならびに博士後期課程修了。音楽博士号学位取得。大学在学中に安宅賞、松田トシ賞を受賞。第72回日本音楽コンクール第1位、同時に松下賞・聴衆賞も受賞。二期会オペラ研修所を最優秀賞及び川崎静子賞をもって修了。ザルツブルク・モーツァルトウム音楽大学に留学。これまでに日生劇場「夕鶴」つう、同「ヘンゼルとグレーテル」グレーテル、同「リア」(日本初演) コーディア、東京フィル「イドメネオ」イリア(演奏会形式)、北とびあ国際音楽祭「騎士オルランド」アンジェリカ、びわ湖ホール/神奈川県民ホール「ラ・ボエーム」ムゼッタ、新国立劇場鑑賞教室「愛の妙薬」アディーナなど数多くのオペラに出演。東京オペラシティ「B→C」、フィリアホール「女神との出逢い」、ハクジュホール「リクライニングコンサート」などのリサイタルシリーズでも好評を博す。また「NHKニューイヤーオペラコンサート」や「NHK名曲リサイタル」「題名のない音楽会」などのメディアにも出演を重ねている。二期会会員。上野学園大学非常勤講師。

手嶋眞佐子 メゾソプラノ

Teshima Masako mezzo soprano

東京藝術大学卒業。同大学院、及び文化庁オペラ研修所第11期修了。プラシド・ドミンゴ世界オペラコンテストメゾソプラノ部門優勝。文化庁派遣芸術家在外研修員としてニューヨークに留学。帰国後は東京二期会や新国立劇場で、「こうもり」オルロフスキー、「ナクス島のアリアドネ」他数々のオペラに出演、2014年には池辺晋一郎作曲「鹿鳴館」に大徳寺侯爵夫人季子役で出演し好評を博す。コンサートでもNHK交響楽団をはじめとする全国のプロオーケストラにソリストとして招かれ、クルト・マズワヤロリン・マゼールなどの著名な指揮者との共演多数。バッハ、ヘンデル、ベートーベン、モーツァルト、ロッシーニ、ヴェルディ、ドヴォルザーク、マーラー他幅広いレパートリーを持つ。2013年銀座王子ホールでのソロリサイタルでもその幅広い舞台経験を生かしたプログラミングと演奏で、満席の聴衆に応え大成功をおさめる。二期会会員。上野学園大学教授。



白木あい



手嶋眞佐子



© Kiyotane Hayashi

小貫岩夫



原田 圭

小貫岩夫 テノール

Onuki Iwao tenor

同志社大学卒業後、大阪音楽大学卒業。音大在学中の95年「魔笛」タミーノ役に抜擢され、テオ・アダムと共演しデビュー。この成功により翌年、ケムニッツ市立歌劇場(ドイツ)に招聘出演し地元紙より好評を得る。文化庁オペラ研修所第11期修了。98年度文化庁派遣でミラノへ留学。帰国後数々のコンクールで優勝・入選し、二期会、新国立劇場を中心に活躍。07/10年二期会「魔笛」タミーノ役(実相寺昭雄演出)、11年佐渡裕プロデュース「こうもり」アルフレード役などで喝采を浴びた。コンサートでも、主要オケとの共演で高い評価を得ている他、テレビ・ラジオにも度々出演。2010年から毎年、東京と大阪でリサイタルを開催し好評を得ている。2013年2月、二期会公演「こうもり」に主役アイゼンシュタイン役で出演し絶賛される。4月、天皇皇后両陛下御覧覧の舞踏会で演奏し、お言葉を賜る。6月、フィレンツェにてイタリア元首相夫妻主催のコンサートに招かれ出演。二期会会員。

原田 圭 バリトン

Harada Kei baritone

東京藝術大学卒業。同大学院修了。博士号(音楽)取得。在学中に安宅賞受賞。「藝大メサイア」公演のソリストとしてデビュー。藝大合唱定期「ドイツ・レクイエム」(H.M.シュナイト指揮)等のソリストを多数務める。東京文化会館新進音楽家オーディション声楽部門合格。第16回奏楽堂日本歌曲コンクール第1位入賞、中田喜直賞受賞。第77回日本音楽コンクール声楽部門入選。新国立劇場「黒船」、二期会「魔笛」、日生劇場「夕鶴」等のオペラ、また宗教曲のソリストとして多数出演。プラハ国立歌劇場特別演奏会モーツァルト「レクイエム」公演にソリストとして抜擢され、プラハ国立歌劇場管弦楽団と共演。2014年1月～4月にかけてジャパン・アーツ主催による歌劇「夕鶴」(市川右近演出、佐藤しのぶ主演)公演に運ず役として全国ツアーに参加、好評を博す。現在、東京藝術大学、上野学園大学、日本大学芸術学部非常勤講師。二期会会員。

永澤麻衣子 発声・練習指導

Nagasawa Maiko

国立音楽大学声楽科卒業。声楽を瀬戸美子、清水明子、田島好一、吉澤祐江の各氏に師事。また、ドイツや日本においてCh.d.プロイン氏に師事し、リート解釈などの研鑽を積んでいる。ヴォイストレーナーとして多くのアマチュア合唱団の指導を行なうとともにソリストとしても活動。東京合唱団発声・練習指導者。

平野裕樹子 練習ピアニスト

Hirano Yukiko

日本大学芸術学部を総長賞を受賞して首席で卒業。読売新人演奏会出演。市川市文化会館新人オーディション優秀賞受賞。室内楽を鳩山寛氏、ピアノを神野明氏に師事。ソロ活動としてこれまでに7回のリサイタルを東京で開催。日仏現代音楽協会会員。2008年より東京合唱団練習ピアニスト。

東日本大震災メモリアル管弦楽団出演者

■第1ヴァイオリン

北村京子
(コンサートミストレス)

海保あけみ

宮川芳江

吉川哲生

嶋脇真紀

坊野称央己

矢野聡美

■第2ヴァイオリン

吉原葉子

西本徳子

徳井えま

大森佳奈

高橋英梨子

堀越瑞生

■ヴィオラ

渡邊信一郎

原口朝子

千年美菜子

光行澄子

吉田典代

後藤俊太郎

■チェロ

羽川真介

羽川恵子

豊田省吾

井崎瑛恵

加藤 歩

■コントラバス

地代所 悠

追榮 祥

■クラリネット

川端秀樹

及川 豪

■ファゴット

森田 格

鴨志田夏実

■トランペット

海保 泉

石田 論

■トロンボーン

東川暁洋

今込 治

小倉史生

■ティンパニ

篠崎史門

■オルガン

小林英之

東日本大震災メモリアル管弦楽団

2012年、第1回東日本大震災追悼チャリティコンサート「鎮魂と復興への祈り」のために、上野学園大学の教員有志およびその友人や学生を中心に結成された。日本を代表するオーケストラに所属するメンバーや、プロとして各方面で活躍しているメンバーも含まれている。東京KMG管弦楽団の有志も参加。

東日本大震災メモリアル合唱団

2012年の第1回東日本大震災追悼チャリティコンサートを開催後、東京合唱団が第2回コンサートのために改めて呼びかけて結成された。東京合唱団、台東区合唱連盟加盟合唱団、上野学園大学・同短期大学部学生・職員、学習院OB合唱団、東京大学音楽部OB合唱団アカデミカコール等の有志および多数の一般の応募者から成る。

F. Schubert : Messe Nr.2 G-dur D167
シューベルト：ミサ曲第2番 ト長調 D167

I Kyrie

Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.

I あわれみの賛歌

主よ、あわれみたまえ。
キリストよ、あわれみたまえ。
主よ、あわれみたまえ。

II Gloria

Gloria in excelsis Deo!
et in terra pax hominibus bonæ voluntatis,
laudamus te, benedicimus te,
adoramus te, glorificamus te!
Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam,
Domine Deus, Rex cœlestis, Deus Pater omnipotens,
Domine Fili unigenite Jesu Christe!
Domine Deus, agnus Dei, Filius Patris,
qui tollis peccata mundi, miserere nobis,
suscipe deprecationem nostram, miserere.
Quoniam tu solus sanctus, tu solus altissimus,
tu solus Dominus,
cum sancto Spiritu in gloria Dei Patris. Amen.

II 栄光の賛歌

天のいと高きところには、神に栄光、
地には善き人に平安あれ。
われら主をほめ、主をたたえ、
主をおがみ、主をあがめ、
主の大なる栄光のゆえに感謝したてまつる。
神なる主、天の王、全能の父なる神よ。
主なる御ひとり子、イエス・キリストよ。
神なる主、神の子羊、父のみ子よ。
世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ。
われらの願いをききいれたまえ。
主のみ聖なり、主のみ王なり。
主のみいと高し、
聖霊とともに、父なる神の栄光のうちに。アーメン。

III Credo

Credo in unum Deum, Patrem omnipotentem,
factorem cœli et terræ,
visibilem omnium et invisibilem.
In unum Dominum,
Jesum Christum Filium Dei unigenitum,
ex Patre natum ante omnia sæcula,
Deum de Deo, lumen de lumine,
Deum verum de Deo vero,
genitum, non factum, consubstantialem Patri,
per quem omnia facta sunt,
qui propter nos homines et nostram salutem
descendit de cœlis.
Et incarnatus est de Spiritu sancto ex Maria virgine,
et homo factus est.

III 信仰宣言

われは信ず、唯一の神、全能の父を。
天と地、見ゆるもの、
見えざるもの全ての造り主を。
われは信ず、唯一の神、
神の御ひとり子、イエス・キリストを。
主はよろず世より先に、父より生まれ、
神よりの神、光よりの光、
まことの神よりのまことの神。
造られずして生まれ、父と一体となり、
すべては主により造られたり。
主は、われら人類のため、われらの救いのために、
天より降り、
聖霊によりて処女マリアより御からだを受け、
人となりたまえり。

Crucifixus etiam pro nobis sub Pontio Pilato,
passus, et sepultus est.
Et resurrexit tertia die, secundum scripturas,
et ascendit in cœlum, sedet ad dexteram Patris.
Et iterum venturus est, cum gloria
iudicare vivos et mortuos,
cujus regni non erit finis.

Credo in Spiritum sanctum Dominum, et vivificantem,
qui ex Patre et Filio procedit,
qui cum Patre et Filio simul adoratur,
conglorificatur, qui locutus est per Prophetas,
confiteor unum baptisma in remissionem peccatorum
mortuorum,
et vitam venturi sæcli.
Amen.

IV Sanctus

Sanctus, Sanctus, Sanctus, Dominus Deus Sabaoth!
Pleni sunt cœli et terra gloria tua.
Osanna in excelsis.

V Benedictus

Benedictus qui venit in nomine Domini.
Osanna in excelsis.

VI Agnus Dei

Agnus Dei,
qui tollis peccata mundi, miserere nobis.
Agnus Dei,
qui tollis peccata mundi, dona nobis pacem.

ポンシオ・ピラトの下にて、われらのために十字架にかけられ、
苦しみを受け、葬られたまえり。
聖書にありしごとく、三日目によみがえり、
天にのぼりて、父の右に座したもう。
主は栄光のうちに再び来たり、
生ける人と死せる人とを裁きたもう。
主の国は終わることなし。

我は信ず、主なる聖霊、生命の与えぬしを。
聖霊は、父と子より出で、
父と子とともに、拝みあがめられ、
また預言者によりて語りたまえり。
罪の赦しのためなる唯一の洗礼をみとめ、
死者のよみがえりと、
来世の生命とを待ち望む。
アーメン。

IV 感謝の賛歌

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、万軍の神なる主。
主の栄光は天地に満つ。
天のいと高きところにオサンナ。

V ほむべきかな

ほむべきかな、主の名によりて来る者。
天のいと高きところにオサンナ。

VI 平和の賛歌

神の子羊、
世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ。
神の子羊、
世の罪を除きたもう主よ、われらに平安を与えたまえ。

W.A.Mozart:Requiem d-moll KV626
モーツァルト：レクイエム ニ短調 KV626

I Introitus

1. Requiem

Requiem æternam dona eis, Domine,
et lux perpetua luceat eis.
Te decet hymnus, Deus, in Sion,
et tibi reddetur votum in Jerusalem.
Exaudi orationem meam,
ad te omnis caro veniet.
Requiem æternam dona eis, Domine,
et lux perpetua luceat eis.

2. Kyrie

Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.

II Sequenz

3. Dies iræ

Dies iræ, dies illa,
solvat sæclum in favilla:
teste David cum Sibylla.
Quantus tremor est futurus,
quando judex est venturus,
cuncta stricte discussurus!

4. Tuba mirum

Tuba mirum spargens sonum
per sepulchra regionum,
coget omnes ante thronum.
Mors stupebit et natura,
cum resurget creatura,
judicanti responsura.
Liber scriptus proferetur,
in quo totum continetur,
unde mundus judicetur.

I 入祭唱

第1曲 レクイエム

主よ、永遠の安息を彼らに与え
絶えざる光でお照らしてください。
神よ、シオンではあなたに賛歌が捧げられ
エルサレムでは誓いが果たされます。
私の祈りをお聞き届けください。
すべての肉体はあなたの元に戻ることでしょ
う。
主よ、永遠の安息を彼らに与え
絶えざる光でお照らしてください。

第2曲 キリエ

主よ、あわれみたまえ。
キリストよ、あわれみたまえ。
主よ、あわれみたまえ。

II 続唱

第3曲 怒りの日

怒りの日、その日は
ダビデとシビラの預言のとおり
世界が灰燼に帰す日です。
審判者があらわれて
すべてが厳しく裁かれるとき
その恐ろしさはどれほどでしょうか。

第4曲 奇しきラッパの響き

奇しきラッパの響きが
各地の墓から
すべての者を玉座の前に集めるでしょう。
つくられた者(=人)が
裁く者に弁明するためによみがえるとき
死も自然も驚くでしょう。
書物がさしだされるでしょう。
すべてが書き記された
この世を裁く書物が。

Judex ergo cum sedebit,
quidquid latet apparebit:
nil inultum remanebit.
Quid sum miser tunc dicturus?
Quem patronum rogaturus?
Cum vix justus sit securus.

5. Rex tremendæ

Rex tremendæ majestatis,
qui salvandos salvas gratis,
salva me, fons pietatis.

6. Recordare

Recordare Jesu pie,
quod sum causa tuæ viæ:
ne me perdas illa die.
Quærens me, sedisti lassus:
redemisti crucem passus:
tantus labor non sit cassus.
Juste judex ultionis,
donum fac remissionis,
ante diem rationis.
Ingemisco, tamquam reus:
culpa rubet vultus meus
supplici parce Deus.
Qui Mariam absolvisti,
et latronem exaudisti,
mihi quoque spem dedisti.
Preces meæ non sunt dignæ:
Sed tu bonus fac benignè,
ne perenni cremer igne.
Inter oves locum præsta,
et ab hædis me sequestra,
statuens in parte dextra.

7. Confutatis

Confutatis maledictis,
flammis acribus addictis.
Voca me cum benedictis.

そして審判者がその座に着くとき
隠されていたことがすべて明らかにされ
罪を逃れられる者はありません。
そのとき哀れな私は何を言えばよいのでしょうか？
誰に弁護を頼めばよいのでしょうか？
正しい人ですら不安に思うそのときに。

第5曲 恐るべき御稜威の王

救われるべき者を無償で救われる
恐るべき御稜威の王よ
慈悲の泉よ、私をお救いください。

第6曲 思い出したまえ

思い出してください、慈悲深きイエスよ
あなたの来臨は私たちのためであるということを
その日に私をほろぼさないでください。
私を探して、あなたは疲れ、腰を下ろされた
十字架を堪え忍び、救いをもたらされた
これほどの苦しみが無駄になりませんように。
裁きをもたらす正しき審判者よ
裁きの日の前に
赦しの恩寵をお与えください。
私は罪人のように嘆き
罪を恥じて顔を赤らめます。
神よ、赦しを請う者に慈悲をお与えください。
(マグダラの)マリアを赦し
盗賊の願いをもお聞き入れになった主は
私にも希望を与えられました。
私の祈りは価値のないものですが
優しく寛大にしてください。
私が永遠の炎に焼かれないように。
私に羊(=救われる善人)の群れの中の席を与え
牡山羊(=滅ぼされる悪人)から遠ざけ
あなたの右側においてください。

第7曲 呪われた者

呪われた者たちが退けられ、
激しい炎に呑み込まれるとき
祝福された者たちとともに私をお呼びください。

Oro supplex et acclinis,
cor contritum quasi cinis:
Gere curam mei finis.

8. Lacrimosa

Lacrimosa dies illa,
qua resurget ex favilla
judicandus homo reus:
Huic ergo parce Deus.
Pie Jesu Domine,
dona eis requiem. Amen.

III Offertorium

9. Domine Jesu

Domine Jesu Christe, Rex gloriæ,
libera animas omnium fidelium defunctorum
de poenis inferni,
et de profundo lacu;
libera eas de ore leonis,
ne absorbeat eas tartarus,
ne cadant in obscurum:
sed signifer sanctus Michæl
repræsentet eas in lucem sanctam:
Quam olim Abrahæ promisisti et semini ejus.

10. Hostias

Hostias et preces tibi,
Domine, laudis offerimus:
tu suscipe pro animabus illis,
quarum hodie memoriam facimus:
fac eas, Domine, de morte transire ad vitam.
Quam olim Abrahæ promisisti
et semini ejus.

11. Sanctus

Sanctus, Sanctus, Sanctus
Dominus, Deus Sabaoth.
Pleni sunt cæli et terra gloria tua.
Osanna in excelsis.

私は灰のように砕かれた心で
ひざまづき、ひれ伏して懇願します。
私の死の不安をお心にかけてください。

第8曲 涙の日

涙の日、その日は
罪ある者(=人)が裁きを受けるために
灰の中からよみがえる日です。
神よ、この者をお救しく下さい。
慈悲深き主、イエスよ
彼らに安息をお与えください。アーメン。

III 奉献唱

第9曲 主イエス・キリスト

主イエス・キリストよ、栄光の王よ
すべての死せる信者の魂を
地獄の罰と深淵からお救いください。
彼らの魂を獅子の口からお救いください。
彼らが冥府に呑み込まれないように。
彼らが暗黒に落ちないように。
旗手の聖ミカエルが
彼らの魂を聖なる光へと導きますように。
かつてあなたがアブラハムとその子孫に
約束されたように。

第10曲 賛美の生け贄と祈り

賛美の生け贄と祈りを
主よ、あなたに私たちは捧げます。
彼らの魂のためにお受け取りください。
今日、私たちが追悼するその魂のために。
主よ、彼らの魂を死から生へとお移しください。
かつてあなたがアブラハムとその子孫に
約束されたように。

第11曲 聖なるかな

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな
万軍の神よ、主よ
天と地はあなたの栄光に満ちています。
いと高きところにオサンナ*。(＊救いたまえの意)

12. Benedictus
Benedictus qui venit in nomine Domini.
Osanna in excelsis.

第12曲 祝福されますように
主の御名において来る者は祝福されますように
いと高きところにオサンナ。

IV Agnus Dei

13. Agnus Dei
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
dona eis requiem.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
dona eis requiem.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
dona eis requiem sempiternam.

IV 神羊唱

第13曲 神の子羊
この世の罪を取り除く神の子羊よ
彼らに安息をお与えください。
この世の罪を取り除く神の子羊よ
彼らに安息をお与えください。
この世の罪を取り除く神の子羊よ
彼らに永遠の安息をお与えください。

V Communio

14. Lux aeterna
Lux aeterna luceat eis, Domine:
cum sanctis tuis in aeternum,
quia pius es.
Requiem aeternam dona eis Domine,
et lux perpetua luceat eis.
cum sanctis tuis in aeternum,
quia pius es.

V 聖体拝領唱

第14曲 永遠の光
主よ、彼らを永遠の光でお照らしください。
聖者とともに永遠に
あなたは慈悲深くあられるのですから。
主よ、永遠の安息を彼らに与え
絶えざる光でお照らしください。
聖者ととともに永遠に
あなたは慈悲深くあられるのですから。

W.A.Mozart: Ave verum corpus D-dur KV618

モーツァルト：アヴェ・ヴェルム・コルプス ニ長調 KV618

Ave verum Corpus
natum de Maria Virgine:
Vere passum, immolatum
in cruce pro homine:
Cujus latus perforatum
unda fluxit et sanguine:
Esto nobis prægustatum
in mortis examine.

ああ、あり難いことよ
聖母マリアよりお生まれになったまことのお身体よ。
人々の罪を購うため、まことの苦しみを受け
十字架の苦難に遭われ
その脇腹は、刺し貫かれ
血が波のようにあふれ出ました。
どうか、私たちに復活の喜びを味あわせてください
死の試練を迎える前に。

シューベルト

《ミサ曲第2番ト長調》

キリスト教の典礼式文であるキリエ、グローリア、クレド、サンクトゥス、アニヌス・デイに作曲した音楽を、通常「ミサ曲」と呼んでいるが、フランツ・ペーター・シューベルト(1797年1月31日～1828年11月19日)は、生涯6曲のミサ曲を作曲している。その中で最も短いのが、この《ミサ曲第2番ト長調》である。シューベルト18歳の1815年3月2日から7日のわずか6日間という短期間にウイーンにおいて作曲された。シューベルトがコンヴィクト(王室寄宿制学校)を退学し、父が校長をしていた学校で助教員として働き始めたころに当たる。31歳という短い生涯の中でも、多くの作曲を手がけて充実した時期である。ゲーテの詩による「野ばら」や歌曲「魔王」もこの年に作曲された。

シューベルトは、家族や友人たちと音楽を楽しむために作曲することが多かった。初期の12曲の弦楽四重奏曲は、おそらく父や兄たちと楽しむために作曲されたと言われている。合唱曲もシューベルティアードと呼ばれる友人たちとのサロンのような集いで演奏されるものが多かったので、比較的少人数で軽いタッチで演奏されるものが多いのだが、この《ミサ曲第2番ト長調》は、1815年の春にシューベルトが子供のころから通っていたリヒテンタール教会で初演された本格的な宗教曲である。

1815年3月のウイーンと言えば、ちょうど「ウイーン会議」の真っ最中であった。前年9月からオーストリア外相メッテルニヒの主宰で始まった会議が各国の思惑の衝突により、「会議は踊る。されど進まず」と言われたように小田原評定を繰り返していたところに、ナポレオンのエルバ島脱出の報が入り、あたふたしていた時期に相当する。外交の権謀術数渦巻くウイーンで、再び戦争が起きるかもしれないと人々が騒ぎ始めていたころ、その喧騒を離れて、このように静謐で透明感あふれる美しいミサ曲が生まれていたとは大きな驚きである。



私にとってのシューベルトのイメージは、中学生の頃に観たドイツ映画「未完成交響楽」(ヴィリ・フォルスト監督、1933年)のハンス・ヤーライ演ずるハンサムな男性の印象が強いのだが、この物語は、ほとんどがフィクションだそう。実際のシューベルトは、あのように貧乏でも孤独でもなかった。音楽一家に育ち、多くの親友に囲まれ、楽譜の売れ行きも良く、結構豊かで幸せな生涯を送ったと思われる。

この曲には、東京合唱団員にとって特別な思いがある。同合唱団創設者の前田幸市郎氏がこの世で最後に指揮した曲だからである。亡くなる約3か月前の1989年6月23日に学習院百周年記念会館正堂で学習院混声合唱団および同管弦楽団の演奏会だった。その縁もあって2009年9月31日の前田幸市郎没後20年のメモリアルコンサートにおいて、東京合唱団と東京大学音楽部OB合唱団アカデミカコールの合同により演奏された。指揮は、ご子息の前田幸康氏だった。アカデミカコールのメンバーの大半は、在学中男声合唱団「コールアカデミー」の常任指揮者だった前田幸市郎氏の指導を受けている。また、2013年1月20日に秋田で開かれた前田幸市郎没後25年メモリアルコンサートでも、教え子の川口洋一郎氏の指揮、秋田カンパネラ・コールの合唱により演奏されたが、東京合唱団のメンバー8人が駆けつけてステージに乗った。本日の指揮も、前田幸市郎氏のDNAと衣鉢を受け継ぐご子息の前田幸康氏である。

モーツァルト

《レクイエムニ短調》

レクイエムとは、カトリックの典礼文に則った「死者のためのミサ」のことで、旧約聖書にある *Requiem æternam dona eis* (永遠の安息を彼らに与えたまえ) という章句が何度も繰り返されることから、そう呼ばれるようになった。典礼文の意味からすると、煉獄の「最後の審判」において死者の魂を救済して永遠の安息を与えてくれるよう神に祈るものであるから、信者の葬儀などのミサで歌われるのが本来の目的である。我が国では明治時代から「鎮魂曲」と訳されていて、カトリックの教義を離れて、死者の魂を鎮める音楽として盛んに演奏されている。カトリック教徒から見れば誤訳に思われるだろうが、明治時代に西洋音楽が日本に入ってきたとき、日本的宗教観と融合して、死者が極楽往生するように祈るための音楽として受容されたものと思われる。このような教会の外でのレクイエムの歌われ方は、今や日本の文化として定着していると言ってよい。

ローマン・カトリックの守護者である神聖ローマ帝国の首都ウィーンで活躍したモーツァルトは、もちろん煉獄思想に基づき、死者の救いを神に祈る音楽としてこの《レクイエム》を作曲した。モーツァルトは、1791年12月5日に亡くなっているが、その年の7月、見知らぬ男が訪ねて来て、匿名の依頼主からレクイエムの作曲を頼まれた。妻コンスタンツェの再婚相手のゲオルク・ニッセンの「モーツァルト伝」(1828年)などによって、モーツァルトは、冥界からの使者の依頼によると思いこんで自らのために《レクイエム》を作曲したのだという伝説が流布してきた。ところが、1977年にヴォルフガング・プラートが刊行した「モーツァルト年鑑」によって、この伝説は、コンスタンツェによる作り話であるということがほぼ確認された(ロビンズ・ランドン著、海老沢敏訳「モーツァルト最

後の年」中央公論新社 2001年)。この依頼主は、実はフランツ・ヴァルゼック伯爵というウィーン近郊の領主であり、アマチュアの音楽愛好家で、著名な作曲家に作曲させては、それを自分の作品として発表して人々をからかうという悪趣味の持ち主であったらしい。

実際、1793年12月14日にヴァルゼック伯爵自身の指揮で亡き妻のメモリアルとして演奏された。《レクイエム》全曲の初演は、これに先立つ1793年1月4日にウィーンで、モーツァルトの庇護者の一人だったゴットフリート・スヴィーテン男爵の肝いりで行われた。

モーツァルトの死により、未完のまま残されたと思われる作品は、主として弟子のフランツ・ジュスマイヤーによって補筆されたとされるが、どの部分までがモーツァルトの純正作品で、どの部分に弟子の手が加わっているのかについては、多くの研究があり、論争が後を絶たない。モーツァルトは、最晩年に死と向き合いながら、猛烈なスピードで作曲した。ロビンズ・ランドンによれば、モーツァルトが《レクイエム》の作曲に充てた時間は、正味1ヶ月とちょっとしかなかったが、その間に膨大なスケッチ(小部分稿)を残したという。〈涙の日 *Lacrimosa*〉は、わずか8小節のスケッチだけで未完のままに残された。これが絶筆と言われるが、これ以後に歌われる部分はすべて別人の作だというわけではない。モーツァルトは、レクイエムを典礼文の順序では作曲していないからである。現に、オーストリア国立図書館にある《レクイエム》のモーツァルト自筆譜には、その後に歌われる《奉献唱 *Offertorium*》中の〈生け贄 *Hostias*〉の最後に、“*Quam olim Da Capo*” (前の章の *Quam olim* を頭から繰り返す) の指示があったそう(1958年のブラッセル博に貸し出されている時に盗難にあってこの部分は破り取られているという)。

20世紀になってモーツァルト研究が進み、モーツァルト自身の筆になる部分と、弟子達、

特にジュスマイヤーによる補筆の区分が次第に明らかとなり、補筆の稚拙さが問題視されて、1970年代以降、バイアー版、モーンダー版、ランドン版、レヴィン版などの改良版の出版が行われるようになった。しかし、一方で、「〈涙の日 Lacrimosa〉を補填して、現にあるように作曲する能力がジュスマイヤーにあったのだろうか」という疑問も1800年代から今日まで言われ続けていることも事実である。フリードリヒ・ブルーメは、「少なくとも、〈Lacrimosa〉と〈Benedictus〉、〈Agnus Dei〉両楽章はモーツァルト級の巨匠の手になるものであり、モーツァルト自身でないとしたら、いったい誰がなしたであろうか」と言っている（『レクイエム論争に終わりなし』P.H.ラング編、国安洋、吉田泰輔訳「モーツァルトの創作の世界」音楽之友社 1973年 所収）。モーツァルトの指示がどこまで行き届いたものであったのか、スケッチがどの程度残されていたのか、今となっては知るすべもないが、死に臨んだ天才モーツァルトの魂の叫びは、ジュスマイヤーには十分伝わったと想像することは可能である。コンスタンツェの妹のゾフィー・ハイベルは、1825年4月7日付けでニッセンに送った手紙の中でモーツァルトの死の前日の模様を次のように書いている。「ジュスマイヤーがモーツァルトのベッドの傍らにいました。よく知られた《レクイエム》が掛けぶとんの上に乗せられ、モーツァルトは彼に、自分が死んだらどのように考えて完成すべきなのかを説明していました。」（ロビンズ・ランドン著「前掲書」）このように、モーツァルトの死の直前まで病床に待たせてその指示を受け、また、モーツァルトの残したスケッチを十分利用できた弟子の手になるジュスマイヤー版が最も多く演奏されているようだ。本日の演奏もジュスマイヤー版による。



《アヴェ・ヴェルム・コルプス》

モーツァルトのアヴェ・ヴェルム・コルプスは、カトリック教会の「キリスト聖体節」のために歌われるモテット（宗教的声楽曲）として作曲された。詩の意味は、「イエス・キリストが聖母マリアより生まれ、人類の罪を購うために十字架の受難に遭われ、さらに復活を果たされた奇跡を思い起こして、いつか私達が死を迎える時に、死の試練を迎える前に、聖体（キリストのこと。現実には、「最後の晩餐」の秘蹟に由来するキリストの体と血の象徴としてのパンとぶどう酒）をいただき、復活の喜びを味わうことが出来るよう祈る」ものである。

作曲したのは、死の約半年前の1791年6月17日である。妻コンスタンツェが病氣療養中の温泉地バーデンで作曲され、妻が世話になった合唱指揮者で友人のアントン・シュトル(1748～1805)に贈呈された。《レクイエムニ短調》にも通じる、死の予感と復活への希望を感じさせる珠玉の名曲である。

東京合唱団テノール 塩谷隆英

被災地支援活動のご報告

第3回までの追悼コンサートの純益金と会場で皆様からお預かりした義援金は、これまでに以下のとおり、被災地に再生ピアノや他の楽器類をお届けする費用に充てました。またお送りするだけでなく、ほとんどの施設に団員有志がお訪ねし、ミニコンサートなどで交流を図ることもできました。コンサート実現にお力をいただきました皆様、またご来場くださった皆様に厚くお礼申し上げます。



アリス保育園から届いたかわいいおたより

★再生ピアノ(計10台)

宮古市介護老人保健施設「ほほえみの里」

(後にグループホーム「たろう」に移管)

田野畑村特別養護老人ホーム「リアス倶楽部」

岩泉町グループホーム「いわいずみ」

釜石市託児施設「虹の家」

仙台市特別養護老人ホーム「春の森から」

名取市介護老人保健施設「なとり」

大槌町「大槌保育園」(2台)

大槌町「吉祥寺」

釜石市「鶴住居保育園」

★鼓笛隊用ドラムなど

大槌町「みどり幼稚園」

鶴住居「鶴住居保育園」

★マラカス

大槌町「吉里吉里保育園」

★電子ピアノ・クラビノーバ(計2台)

石巻市私立「アリス保育園」

石巻市市立「ふたば保育所」

幸せなら手をつなごう！

田野畑村「リアス倶楽部」再訪

2014年5月31日と6月1日に岩手県の田野畑村の特別養護老人ホーム「リアス倶楽部」と大槌町吉里吉里の「吉祥寺」で、被災地の人々との「交流コンサート」を企画したところ、指揮者の前田幸康先生とピアニストの平野裕樹子先生をはじめ第3回追悼チャリティコンサートに参加した合唱団の有志など33名の方々が参加して下さいました。このうち20名は、31日の早朝東京を発って東北新幹線で盛岡へ行き、そこから貸切バスで田野畑村へ向かった。北上高地を横断するヘアピンカーブの続く山道はまだ新緑の季節で、若葉に照り映える光がまぶしかった。

リアス倶楽部には、一昨年(2013年)の4月に再生ピアノを寄贈している。そのとき団員4人で施設を訪問し、入所者の方々と一緒に「おぼろ月夜」などを歌ったことがあるが、「合唱団には人数が少ないねえ」との声に、「今度はもう少し大勢で来ます」と約束していたので、ようやく実現できたことが嬉しかった。

前田先生の指揮、平野先生のピアノ伴奏で「アヴェ・ヴェルム・コルプス」の合唱を披露したあと、平野先生に「トロイメライ」と「子犬のワルツ」を独奏していただいた。ピアノは、直前に調律していたこともあって、驚くほど良い音を響かせていた。次に、「東京合唱団の歌のお姉さん」こと坂井田廣子さんの指導で、定番の



ふたば保育所、ピアノを囲んで元気な笑顔

「ふるさとの四季」を合唱した。すっかり顔なじみになった「チヨさん」が歌にあわせて笑顔で指揮の恰好をする姿が2年前と全く変わっていなかったのも何よりだった。最後に前田先生の指揮で「ふるさと」を全員で歌った。

帰途は田野畑村から久慈まで三陸鉄道のお座敷列車で移動した。駅舎のすぐ前まで津波が来たという駅前で、居合わせた人々で海に向かって黙祷を捧げたあと列車に乗りこむと、「あまちゃん」の中で運転手として登場した金野淳一運行本部長が乗っていて案内役を努めてくれた。車窓から時々見えるリアス式海岸の風景は美しかったが、津波で流された跡が痛々しく残っているところもあり、北部の復興は遅れているように見えた。

吉里吉里の吉祥寺で被災者の方々と交流コンサート

翌日は、盛岡のホテル前から貸し切りバスで出発、北上駅で日帰り組13人と合流して、吉里吉里の吉祥寺を訪れた。今年の1月に再生ピアノを届けたお寺である。震災直後250人ほどの避難者を1か月近く収容したというお寺の会館で、被災者の心のケアのために音楽療法を施しているのでピアノが必要ということだった。全員で海に向かって黙祷を捧げたあと、リアス倶楽部でのレパトリーに加え、お寺で歌うのはどうかと思ったが、高橋英悟住職の「全くこ

だわりませんよ」との言葉に、ブラームスの「ドイツレクイエム」から第4番を合唱した。平野先生のピアノ独奏に続いて特別参加の仙波敬一さんがトランペットでポピュラーな曲を独奏してくれて会場が和んだ。さらに、地元の「くじら山合唱団」が地元で伝わる子守唄などを合唱してくれた。最後は坂井田廣子さんの機転で、「幸せなら手をつなごう」の号令一下、全員が一つの輪になった。参加者の中には、大震災以来心にかかっていた被災地の方々との間とはいえ交流ができたことと涙ぐむ人もいた。

追悼コンサート実行委員長 塩谷隆英



リアス倶楽部再訪、皆で歌のひとつとき



吉祥寺、幸せなら手をつなごう！



吉祥寺・高橋英悟ご住職といっしょに

東日本大震災メモリアル合唱団出演者

◆ソプラノ

市井さゆり
上野由起子
碓井砂緒里
大森みま子
岡本智子
荻野直美
加藤方子
加藤雅子
川村説子
木村絵里子
木村 薫
木村芳枝
久保田恵子
小池直子
小林真利子
近藤鈴夏
坂井田廣子
佐々木緑
佐藤初美
滋野奈津美
篠塚智子
清水有紀子
仙波京子
楚山静子
竹田貴子
田中温子
土屋貴子
中居ゆり子
中川雅子
中島知恵
永瀬いち子
中野克代
初貝久美子
早川由希子

平岡ひろ子
村岡麗子
室木梨沙
山口恵子
山下文子
吉田小智子

◆アルト

青木泉水
青木みね子
青木由実子
明石鮎子
荒井華子
伊藤静子
今溝恵子
岩端由美子
内田友子
大村富久子
恩藏恵子
加倉井今日子
梶原典子
黒田有里子
小柴ひとみ
小林史子
小林陽子
佐藤容子
白井悦子
早田いつ子
高橋洋子
瀧来佐穂
多田久子
津賀恵理
遠山木乃美
中野みほ
橋爪里佳

花形由美
平石恵津子
広瀬容子
松田和子
南みはる
村上照子
森川マリ
森 米子
矢野良子
山崎由美子
山田久子
山田ゆかり
吉村節子

◆テノール

石井泰裕
伊藤正徳
上野紘機
大久保孝義
太田絃子
上島 敏
川上春雄
岸 柁文
木村悦郎
栗原康明
小谷一夫
塩谷隆英
鈴木 昂
田中 力
田中雅章
富松太基
長尾正樹
永野康雄
中村晴永
成田本行

沼野 博
藤田侑一郎
細川 仁
松本洋一
間部健太郎
安田春夫

◆バス

青木修三
天谷敏夫
荒川昌夫
市井善博
大橋正教
葛西英一
近藤安雄
近 正明
三才萬里
滋賀秀實
田澤雅昭
任田弘道
長崎幸司
中野弘一
野辺博康
原田保孝
干場信之
広畑俊成
宮川勇蔵
森 正明
山岡成行
山口 和
山田 亮
山本洋一
吉富六郎



本公演に
ご支援をいただいた方々

協力 上野学園 石橋メモリアルホール
後援 秋田魁新報社
岩手日報社
学校法人上野学園
河北新報社
時事通信社
台東区
台東区合唱連盟
東奥日報社
トムソン・ロイター
日本経済新聞社
福島民報社
福島民友新聞社
山形新聞・山形放送
読売新聞社 (五十音順)
協賛 株式会社クラレ
トヨタ自動車株式会社
バン産商株式会社(台東区)
株式会社須賀楽器・駿台音楽院・
スガスタジオ(千代田区)
西村和素 株式会社ホテルニューカマクラ社長
前田幸康サポータークラブ
内山正紀
藤崎長之助
星 佳芳
森田君子 (敬称略)
ここにお名前を記していない多くの方々にも
さまざまにご支援、ご協力を賜りました。
厚くお礼申し上げます。

本チャリティコンサートの
純益金について

本チャリティコンサートの純益金は、
今回も東日本大震災被災地の音楽の復興に
直接役立つように使わせていただ
きたいと考えております。具体的には、
被災地へ楽器や修理・調律を済ませた
再生ピアノを届ける費用に充てます。

第1回から第3回までのコンサート
純益金による被災地支援活動に関して
は、本プログラム14、15ページおよび当
団ホームページにご報告しているとお
りです。

なお、ピアノなどの楽器を必要とし
ている被災施設、およびピアノなどの
楽器を被災地へご寄付いただける方々
の情報がございましたらお寄せ下さい。
詳しくは、当団のホームページをご覧
下さい。

東京合唱団次回演奏会のお知らせ

2015年10月12日(月・祝)

午後2時開演 紀尾井ホール

曲目: 番場俊之: 三好達治作詞
「春の岬」より

ブラームス: Nänie(哀歌)

プッチーニ: Messa di Gloria
(グロリア・ミサ)

指揮: 前田幸康

管弦楽: 東京KMG管弦楽団

■参加者を募集しております

東京合唱団事務局 Tel.090-1701-3438 Fax.03-3395-2546

e-mail tokyochor@gmail.com

東京合唱団ホームページ <http://tokyo-gasshodan.com/>

モーツァルト

アヴェ・ヴェルム・コルプス

Ave, ave verum Corpus
natum de Maria Virgine:
Vere passum, immolatum
in cruce pro homine:
Cujus latus perforatum
unda fluxit et sanguine:
Esto nobis prægustatum
in mortis examine,
in mortis examine.

故郷（ふるさと）

岡野貞一 作曲 高野辰之 作詞
番場俊之 編曲

うさぎおいし かのやま
こぶなつりし かのかわ
ゆめは いまも めぐりて
わすれがたき ふるさと

いかにいます ちちはは
つつがなしや とものがき
あめに かぜに つけても
おもいづる ふるさと

こころざしを はたして
いつのひにか かえらん
やまは あおき ふるさと
みずは きよき ふるさと



東京合唱団